

「日々の理科」(第 4424 号) 2026, -9, 20

「秋の北極圏旅行記 (6)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



友人の家には「マイ栈橋」と「マイボート」もあります。対岸の友人宅に遊びに行くのだそうです。



湖畔の秋の美しさ。これだけで感動です！



友人にイエリバーレの街を案内してもらいました。

この赤い△マークのついた車は、15 歳から乗れる車で、時速 30km 以上出せないようになっています。これで高校に通う生徒も多いそうです。



市の中心にある高等学校です。学校というよりも美術館のような建物ですね。



市の博物館にも行きました。これはかつての学校の教室の様子を再現した部屋です。



売店もあります。コップのようなものは「コーサ」といって、白樺を彫って作ったものです。日本の白樺

は材が柔らかく、工芸品の材料には向きませんが、こちらの白樺は成長が遅く、材が堅牢なのです。



サーメ（北部スカンジナビアの民族の一つ）の生活用品も展示されています。カラフルですね。



イエリバーレという地名は「鉱山」という意味です。良質の鉄鉱石を多く産出し、スウェーデン鋼の原料になります。



過去の採掘・運搬の様子です。現在でも産出された鉄鉱石は、長大な貨物列車で、ノルウェーの港まで運

搬されています。



森の動物の様子です。冬には氷点下 40℃にもなりますが、実に多様な動植物に恵まれています。



ライチョウも時々見かけます。日本とちがって猟鳥の一つで、食用にします。結構おいしいです。



トナカイと並ぶ大型獣の「ヘラジカ」です。トナカイはほとんど毎日のように見かけますが、ヘラジカはめったに見ません。ヘラジカ肉の燻製を買って食べてみましたが、おいしかったです。